

平成 17 事業年度実績報告書
参 考 資 料

平成 18 年 7 月 20 日

公立大学法人大阪府立大学

目 次

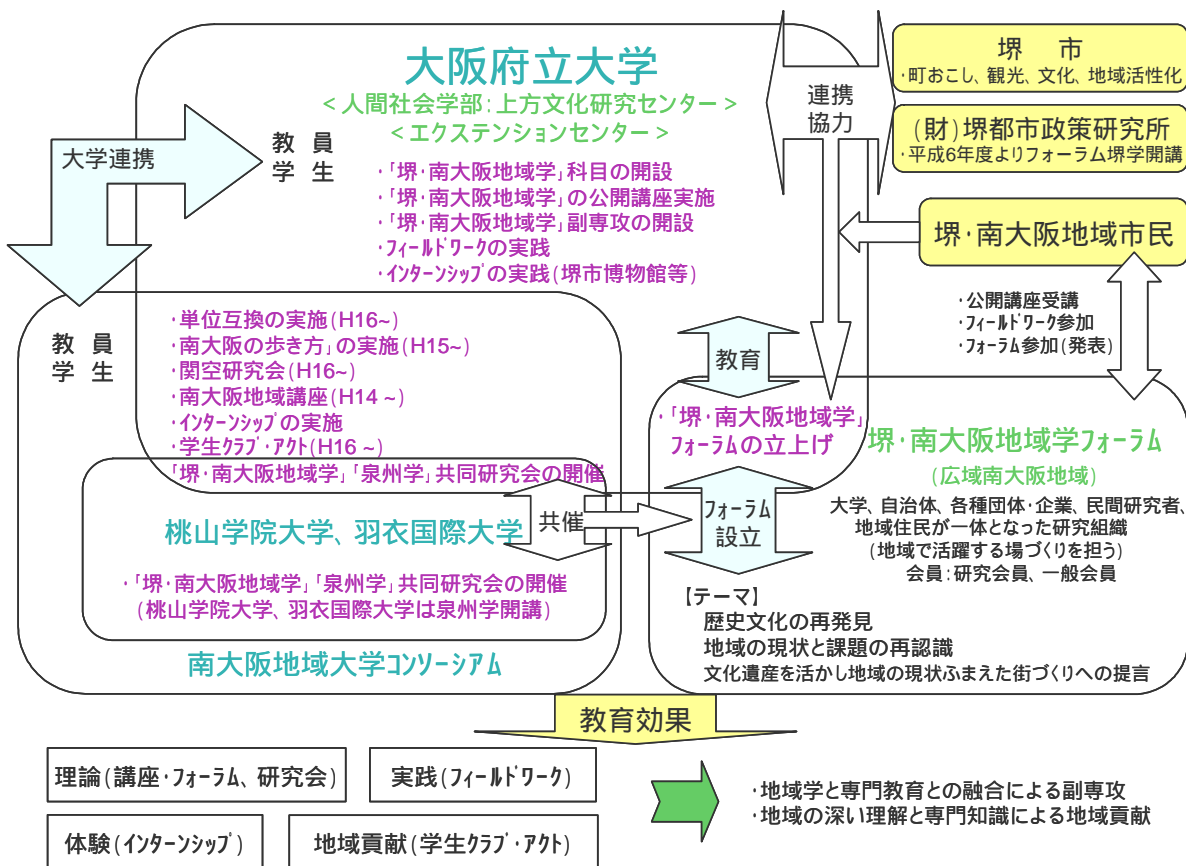
1	現代G P	P . 1
2	大学院イニシアティブ	P . 4
3	学術論文数等実績	P . 5
4	(株)F U D A I	P . 6
5	外部研究資金	P . 7
6	大阪府立大学「21世紀研究所」	P . 8

平成17年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」採択プログラム

取組名称	地域学による地域活性化と高度人材養成 - 大学コンソーシアムを活用した地域連携による「堺・南大阪地域学」の 確立とその成果に基づく地域貢献のための高度な人材養成プログラム -
------	---

○ 取り組みの概要

本取組は、新しい形態の地域学「堺・南大阪地域学」を提唱し、この地域学と専門教育とを融合させて、本学が立地する堺市を中心とした広域南大阪地域（堺・泉州・南河内）の実情を踏まえ、専門的知識をもって地域活性化を行うことのできる、高度な人材の養成を図るものです。まず、南大阪地域の大学が結集している特定非営利活動法人（NPO）南大阪地域大学コンソーシアムの活動を利用し、南大阪地域の各自治体、（財）堺都市政策研究所等と連携して、市民参加型の産官学民一体となった研究組織「堺・南大阪地域学」フォーラムを立ち上げます。そして、その成果を教育に反映させるために、「堺・南大阪地域学」の科目を開設し、これを中心として、各学部の専門教育科目と地域学とを融合させた副専攻コースを設けます。また、コンソーシアムや自治体と連携して、フィールドワークやインターンシップを積極的に取り入れて、学外での実践活動を通してより幅の広い視野を持ったアクティブな人材を育成するように努めるものです。



平成17年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」採択プログラム

取組名称	看護実践能力の獲得を支援するeラーニング - 臨地実習用コピキタス・オン・デマンド学習支援環境の構築 -
------	---

取り組みの背景：看護職に対する時代の要請

医療の高度化、患者様のニーズの多様化に伴い、看護教育機関に対し、看護実践能力（患者の状況を的確に把握・分析し、適切な看護を実践できる能力）を備えた看護職の人材育成が求められています。この社会的ニーズに対応するために教育内容や教授方法の一層の質的な改善を図り、学生が効果的に学習できる新しい環境を提供していく必要があります。

病院などで行う臨地実習は、実際の患者様に接することができ、看護実践能力を養うために非常に有効な学習機会です。この場で看護学生は非常に多くのことを学びます。そのため、看護教育では必須のカリキュラムとなっています。しかし、実習施設はいろいろな場所に点在していますし、大学と同等の学習環境（図書館やインターネット、情報機器）が必ずしも整備されているわけではありません。そこで、この臨地実習をeラーニングという方法を使って補うことによって、学習環境を整えるとともに、さらに学習の質を高められるのではないかと考え、本取組を提案しました。

取り組みの概要

本取組では、**看護における問題解決能力**を育成するための**看護実践事例学習用eラーニング教材**を開発します。さらに、学内教育および臨地実習において、看護学生が、いつでも、どこでも、簡単に、eラーニングで自己学習しやすいコピキタス・オン・デマンド学習支援環境を構築します。これらにより、4年間の学内外での学習機会を通じて、**看護問題解決能力**を主体的かつ効果的に獲得できるよう支援し、高度な**看護実践能力**を備えた人材を育成します。

特に、学生が課題に直面した時には、学習履歴が記録できる機能を備えたUSBメモリを活用し、これをパソコンに装着することで、簡単に、看護教材サーバから事例をダウンロードできます。さらに、臨地実習前に必要な副教材をダウンロードして、自作の**デジタル看護辞典**を作成することができるようにします。この看護辞典を作成する過程で、学生たちは、自学自習し、既習知識の整理や統合ができると考えます。また、自己学習中の**学習支援**として、携帯電話のメール機能を活用して教員に指導を仰げるような双方向学習支援環境を整備します。

取り組みの目的・目標

本取組では、看護実践能力を備えた人材を育成するために、すでに学んだ看護専門知識の整理・統合と看護技術の習得、および看護問題解決能力の向上を目的として、看護実践事例学習用eラーニング教材を開発し、看護学生が利用しやすい環境を整備します。

このeラーニングは、看護教育のカリキュラムの中で実施している、**講義・学内実習・臨地**

実習の学習上の問題を解決するために、それぞれの学習形態の間を補完し、学内外での学習活動の効率化と利便性の向上を図り、学生の主体的な学習態度を育成することを目的としています。

【 目 標 】

- 1) 看護事例教材を体系化して 100 事例開発し、教材データベースの構築
- 2) 看護学生が利用しやすいユビキタス・オン・デマンドな学習支援環境の構築

教材の概要

開発する事例教材は、対象者や看護場面をイメージしやすいように、音声や画像などのマルチメディアを活用します。

既に開発済みのプロトタイプ では、学習モード1で学習者の思考過程を整理できるよう、事例の分析ポイントを段階的に提示します。学習モード2は関連する知識、看護技術、演習問題などを学習できます。これらのデジタル副教材は、再構成し、二次利用することにより、新しい教材の作成や追加も容易にします。

文科省科研費 基盤研究(B)(2)15390666「看護職における問題解決型思考育成のための E-learning に関する研究」(研究代表者 真嶋由貴恵)

ユビキタス・オン・デマンド学習支援環境

臨地実習中や自己学習において、インターネットや情報通信機器を利用して看護学生の学習を支援します。ユビキタス・オン・デマンド学習支援環境の構築は、インターネットでの利用はもちろんですが、インターネットが整備されていない、あるいは病院などの制限された実習環境でも、学生自身が作成した「デジタル看護辞典」で容易に学習できる点がユニークです。学生は、自分用の「デジタル看護辞典」を作成することにより、情報活用能力と共に主体的な学習姿勢が培われていくと考えられます。

○ 取り組み実施体制

学内の組織化を行ない、併せて教材開発を効率的に進めるため、民間企業のサポートを得ながら、プロジェクトを推進していきます。

本取組での教材開発体制や手法、及びプログラム評価における知見は、今後の大学でのeラーニングコース開発において参考になるものと思われます。

○ 社会的貢献

本取組を展開することによって、高度な看護実践能力を持った看護職の創出を可能にし、看護の質向上に寄与します。また、看護問題解決能力育成用eラーニング教材の充実により、学内だけでなく、社会でもその教材を活用できるようになります。さらに、教育方法を開発することから、看護教育分野でのeラーニングモデルの構築を可能にします。加えて、看護職の情報活用能力と教員の教育実践能力の向上を図ることに寄与できると考えています。

平成 17 年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブについて、
 本学から次のプログラムが採択されました。

プログラム名称 : **EBCP 志向の博士前期・後期課程リンケージ**

[看護学研究科]



現在、前期課程修了者の多くは CNS（専門看護師）を目指して実践の場へ、または助手・講師として教育の場へ進んでいます。今後は後期課程へ直接進学することを動機付けるとともに、大学院教育の実質化として、**根拠に基づいた臨床実践 EBCP (Evidence-based Clinical Practice)**の知の探究者としての若手研究者養成を目的とする、前期と後期を連結する新たな教育プログラムが求められています。

そこで、現在、前期（修士）および後期（博士）課程のそれぞれで必修科目として提供している看護学研究法および理論看護学関連科目をさらに充実させ、**EBCP に焦点化したリンケージ・プログラム**を計画しています。内容は、Cochrane Collaboration や Campbell Collaboration が集積するエビデンスの批判的吟味と介入計画作成（前期課程）、RCT 研究の方法論探求とメタアナリシスや介入評価研究（後期課程）からなる、前期と後期を連結する教育プログラムです。各専門分野の教員によるグループ・ティーチングにより専門分野の枠にとらわれず、学生間の協働を生かす独自の試みです。

《参考》

「魅力ある大学院教育」イニシアティブとは・・・

現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な教育の取組を重点的に支援することを目的として、今年度から新たに文部科学省の事業として始まったもので、大学教育改革に資する取組を対象としています。

H17 年度申請件数 338 件（うち公立大学等申請件数 30 件）

H17 年度採択件数 97 件（うち公立大学等採択件数 3 件）

公立大学等とは、公立の大学、短期大学、高等専門学校を含みます。

学術論文発表等実績

項目	学部・研究科	年度計画目標値	17年度	16年度	補足説明
			論文数	論文数	
学術論文数	工学研究科	前年度と同じレベル	884	841	
	生命環境科学研究科	一人あたり1.5報	一人あたり2.2報	一人あたり1.9報	レジャー付論文のみ
	理学系研究科	110件	125	104	レジャー付欧文論文のみ
	経済学部	前年度と同じレベル	66	58	
	人間社会学部	前年度と同じレベル	175	167	
	看護学部	前年度と同じレベル	45	42	
	総合リハビリテーション学部	一人あたり1報	一人あたり1.1報	一人あたり0.8報	レジャー付論文のみ
	総合教育研究機構	一人あたりの件数を前年度と同じレベル	0.8報	1.0報	理系に関しては、レジャー付論文のみ
項目	学部・研究科	年度計画目標値	17年度	16年度	補足説明
			講演等数	講演等数	
学術講演・学会発表数	工学研究科	前年比5%増加	10.6%増	1,884	
	生命環境科学研究科	450件	627	427	
	理学系研究科		374	343	
	経済学部	前年度と同じレベル	35	32	
	人間社会学部	前年度と同じレベル	126	92	
	看護学部	前年比5%増加	23.2%増	82	
	総合リハビリテーション学部		61	54	
	総合教育研究機構	一人あたりの件数を前年度と同じレベル	一人あたり1.7報	一人あたり1.7報	

株式会社F U D A Iについて

【株式会社F U D A Iの概要】

株式会社F U D A Iは、公立大学ではベンチャー企業への出資ができないため、府大の教員及び産学官連携コーディネーター、この株式会社の趣旨に賛同される方々が出資を行い、平成16年6月に設立された会社であり、府立大学の産学官連携活動のうち、人材を養成する「ものづくり後継者育成特修塾」や起業家支援活動などを、府大との業務提携のもと実施し、地域中小企業の「ものづくり」支援体制を確立していくこととしている。

- ・会社名：株式会社F U D A I
(Frontier technology for Unique Development And Innovation)
- ・設立日：平成16年6月18日
- ・資本金：1,200万円
- ・出資者：府大理事長・理事・研究科長・教授・産学官連携コーディネーター等
一般投資家 など
- ・役員：代表取締役社長 川真田忠博（元松下電器産業㈱ものづくり大学校長）
宇宙事業担当役員 東久雄（府大客員教授）
学術顧問 姫野洋司（府大名誉教授）
学術顧問 藤田勝久（元府大教授）
営業担当役員 中田守
営業担当役員 中田修
企画担当役員 浜内親市（元文科省コーディネーター）
- ・業務：各種産学連携に関するコンサルタント業務
企業経営及び人材育成に関するコンサルタント業務
人材育成、品質管理、経営合理化に関する講習会、研修会の開催
企業向けセミナーの実施 など

【ものづくり後継者育成特修塾の概要】

ものづくりの基礎知識、技術習得と実学主体で現状を改善できる実力経営者を育成することをねらいとして、平成16年10月より開催。

- ・開講期間：1年間（：16.10～17.9月、：17.11～18.10月）
- ・受講費用：1,050,000円（1企業2名以上参加の場合は840,000円/人）
- ・受講生：20名、16名
- ・カリキュラム概要
 - ものづくり基礎技術 ものづくりに必要な技術・知識・生産管理・I E・品質管理
V E / V A・工場改善・機械基礎・電気基礎
 - 経営者基礎技術 経営者として必要な知識（財務会計・経営分析・資金調達・原価管理・
資材調達・公的資金支援制度）
 - 最新技術研修 最新技術を学ぶために大学研究室での実習・講義
大学教授・公氏との懇談を通じた交流
 - 実践研修（グループ研究） 5～6人のグループでの課題解決実践
自社の課題抽出と実行計画・実践

外部研究資金について

獲得・達成(収入)状況

単位:千円

	共同研究費	受託研究費	奨励寄附金	科研費等	合計
平成17年度実績	354,663 (172)	367,245 (132)	241,581 (284)	1,056,411 (321)	2,019,900 (909)
平成17年度計画数値 <対16年度比 5%増>	291,519 (150)	258,182 (100)	238,755 (290)	832,046 (313)	1,620,502 (853)
平成16年度実績 <法人化前>	276,819 (141)	245,163 (96)	226,716 (272)	794,637 (299)	1,543,335 (808)
達成率 <対16年度比>	128.1% (121%)	149.7% (137%)	106.5% (104%)	132.9% (107%)	130.8% (112%)
主 な 研 究 テ ー マ	<p>高速超塑性成型可能な燃料電池用金属セパレータの開発</p> <p>マイクロ空間における基本特性を利用したデバイス及び合成反応の開発</p> <p>機能性磁性材料におけるナノ磁区構造解析</p> <p>環境・防災モニタリング用小型2重反転回転翼機の開発</p> <p>大気汚染物質による環境への影響調査研究</p> <p>地域まちづくり計画作成等の支援(堺市金岡地域)</p> <p>聞き取り法による花粉症環境基礎調査</p>	<p>固体高分子形燃料電池実用化戦略的技術開発</p> <p>微細孔中の低温CVD-CNT成膜技術の開発</p> <p>酵素合成アミロースの基礎物性と機能性の解明</p> <p>有機性廃棄物の分別回収及び有効利用方法の開発 - 成人病予防活性を有する機能性食品素材の開発 -</p> <p>発酵ウコンによる制がん効果に関する研究</p> <p>低反射ガラスコーティングに関する研究</p> <p>大気浮遊微小粒子に係る計測装置の開発</p> <p>ディーゼル排気粒子DEPの特性及び生成模様機構の分析</p>	<p>カーボンナノチューブの機械特性計測に関する研究</p> <p>電気抵抗法を用いた金属材料の劣化診断技術に関する研究</p> <p>金属系材料の塑性加工とマイクロ組織に関する基礎研究</p> <p>おから処理方法に関する研究</p> <p>高齢者の転倒メカニズムに関する理学療法的研究</p> <p>土壌、河川水及び大気中での放射性物質及び元素の動態解析</p>	()内数字:件数	

大阪府立大学『21世紀科学研究所』

～ バーチャル研究所による研究活動の推進 ～

大阪府立大学では、21世紀科学研究所を設立し、研究活動の一層の活性化を図ることとしています。

21世紀科学研究所とは、専任の教員や専用の研究施設を置かない研究組織として、学部・研究科の枠を超えて研究を進めることができるバーチャル研究所です。平成18年2月1日から7研究所、4月1日から4研究所を新たに認定し、合計11研究所が本格的に研究活動を開始しています。

この研究所は、様々な分野の研究者を抱える本学が、組織としての研究機能をさらに充実・発展させるため、教育・研究上の枠組を超えた分野（部局）横断型の研究グループの自己組織化を誘導することとしたものです。

そのため、大学は、研究グループの研究者が活動しやすい環境を提供することとしています。具体的には、本学の研究者が21世紀型の研究課題遂行のために研究者グループを組織する場合、大学がその組織を21世紀科学研究所として認定し、組織運営に一定の便宜を図るものです。

- ・ [経営情報システム研究所](#)
- ・ [地域ユビキタス情報通信研究所](#)
- ・ [健康創生研究所](#)
- ・ [構造ダイナミクス研究所](#)
- ・ [ライブセルイメージング研究所](#)
- ・ [ナノファブリケーション研究所](#)
- ・ [ミリ波テラヘルツ波研究所](#)
- ・ [量子ビーム誘起反応科学研究所](#)
- ・ [看護経営システム研究所](#)
- ・ [計算知能研究所](#)
- ・ [看護システム先端技術研究所](#)